

## 名古屋工業大学 未履修外国語アンケート調査

### 集計と分析 (II)

井ノ川 清, 國房 岌, 日野安昭, 大貫 徹, 松浦俊輔,  
鈴木康志, 清水 朗, アルバー・ハインツ

外国語教室

(1992年9月2日受理)

### A Survey of Foreign Languages (German and French) which Students took up in College —Result and Analysis (II) —

Kiyoshi INOKAWA, Takashi KUNIFUSA, Yasuaki HINO, Tohru OHNUKI,  
Shunsuke MATSUURA, Yasushi SUZUKI, Akira SHIMIZU and Heinz ALBER

*Department of Foreign Languages*

(Received September 2, 1992)

We are discussing what is the best way of teaching foreign languages (German and French) in this College. It is necessary to know exactly the ideas the students have on the subject.

For this purpose, on June 4 and 6, we made a survey of opinions of all the Freshmen and Sophomores in this College.

In this paper, we show the result and analysis of the investigation.

以下に示すものは、名古屋工業大学紀要第43巻 (1992年3月刊) に掲載された『名古屋工業大学未履修外国語アンケート調査——集計と分析 (I) ——』に続くものである。本号では、枚数制限の関係で先号の紀要に掲載できなかった記述問題 (項目 2, 3, 15) の結果ならびに全項目の結果分析を掲載する。(但し、我々の分析を明確にするために、先号掲載のアンケート集計結果等はグラフを除いて、今回も随時掲載した。)

## アンケートの集計ならびに分析

設問1 大学では英語以外の未履修外国語も学ぶべきだと思いますか。

A 思う

B 思わない

C 分からない

1年生	A	B	C	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	543 (60.4)	184 (20.5)	163 (18.1)	9
応用化学	82 (67.2)	19 (15.6)	21 (17.2)	0
材料工学	99 (61.5)	36 (22.4)	26 (16.1)	0
機械工学	78 (55.3)	27 (19.1)	34 (24.1)	2
生産システム	45 (45.9)	22 (22.4)	28 (28.6)	3
電気情報	131 (67.2)	41 (21.0)	22 (11.3)	1
知能情報	37 (64.9)	12 (21.1)	5 ( 8.8)	3
社会開発	71 (56.8)	27 (21.6)	27 (21.6)	0
2年生	A	B	C	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	372 (51.5)	241 (33.3)	101 (14.0)	9
応用化学	60 (64.5)	27 (29.0)	6 ( 6.5)	0
材料工学	51 (42.9)	55 (46.2)	12 (10.1)	1
機械工学	56 (50.5)	30 (27.0)	25 (22.5)	0
生産システム	44 (45.4)	37 (38.1)	15 (15.5)	1
電気情報	92 (49.2)	60 (32.1)	28 (15.0)	7
社会開発	69 (59.5)	32 (27.6)	15 (12.9)	0

(A) 回答が1年生全体で6割、2年生でもその全体で5割を超えている。このことは、本学の学生が未履修外国語に対してかなり強い学習意欲を持っていることを表していると言えるだろう。しかし、それが、単位を離れて、純粹に個人的にでも学びたいと考えているかどうかという点になると、後に詳しく見る〔設問14〕の結果に示されているように、かなりあやしいものとなっている。

ところで、この結果が、学科によってかなり差があることに注意しなければならない。例えば、(6月4日に実施した以上、未履修外国語をほとんど学んでいないと言っても決して過言ではない)1年生においても、応用化学学科と生産システム学科との(A)回答率の間には既に20%もの違いが生じている。この差は後期入学(英語受験)者数と関係があるのではなからうか。ただ、材料工学科、電気情報学科などでは1年生から2年生に進むに連れて、(A)を回答する割合が大きく減少してしまっている点に関しては、その理由の分析など、今後の検討課題としたい。

設問2 ドイツ語・フランス語のいずれを選択しましたか、またその理由は何ですか。

我々は分析するにあたって、まず、以下の7項目に、集計した「選択の理由」を分類してみた。  
(複数回答を可とした)

1. 他者(兄弟、友人等)に勧められたため
2. 工学(理系)には必要(重要)と考えたため
3. 選択した以外の言語に回されたため
4. どちらでもよかったから、なんとなく選んだだけ
5. ドイツ(フランス)に多少興味があったから
6. 選択する学生の人数が多そうだから
7. 漠然とした印象的難易度のため

分類	1. 人数	2. 人数	3. 人数	4. 人数	5. 人数	6. 人数	7. 人数
1年生	33	194	57	88	102	44	99
2年生	33	132	76	51	64	54	67

なお、上記の7分類以外の理由の中でとくに目立った記述としては以下の通りである。

1年生：ドイツ語がメジャーな気がするから。

ドイツ語が役に立ちそうだから。

ドイツ語が英語に似ているので興味が持てそうだから。

2年生：ドイツ語の方が実用的であるから。

ドイツ語が英語に似ているので興味が持てそうだから。

上記で(2)を回答した者が1年生でも2年生でも断然多い。それに続くのが、(5)と(7)に回答した者である。例えば、(5)と(7)の回答数を合計してみると、1年生が201人、2年生が131人となる。したがって、本学の学生諸君の多くは、「どちらでもよかったから、なんとなく」というような消極的な態度でドイツ語(フランス語)を選んでいるのではなく、それなりに真剣に考えて選択していると言えるように思う。

全体的な傾向から言えば、ドイツ語の方がフランス語よりも理工学系の学生にとっては親しいもの、あるいは学ぶべきものとして感じられているようである。これは世間に流布しているドイツ語(フランス語)のイメージをそのまま準えたものと言えるであろう。

設問3 ドイツ語・フランス語の他に学びたい（あるいは学ぶ必要があると考えている）未履修外国語があったら挙げて下さい。

以下にその集計結果（複数回答を可とした）を示す。

	1年生	2年生
1. 中国語	188人	157人
2. ロシア語	124人	74人
3. スペイン語	78人	35人
4. ハンゲル語	31人	18人
5. イタリア語	25人	10人
6. ポルトガル語	16人	7人
7. その他の言語	30人	25人

驚くべきことに、1年生も2年生も記述した言語の上位6位までがまったく同じものであった。ということは、中国語から始まってポルトガル語までの6つの言語（これらは、ポルトガル語を除けば、すべてNHKの語学講座で常時開講されている言語でもある）は、学生諸君にとっては、その具体的な知識があるなしに拘わらず、きわめて身近なもの、あるいは学びたいものとして感じられているということになろうか。ことに、中国語に関しては、現在本学において全く開講されていない以上、早急に何らかの処置を考えるべきであろう。（なお、ロシア語は3年生、4年生対象の選択科目として既に開講されている。）

設問4 現在二つの外国語（英と独 or 英と仏）が必修ですが、

- A 現行どおり2外国語必修でよい      B 1外国語必修、もう1外国語は選択がよい  
C 外国語は一つ必修にするだけでよい      D その他（      ）

1年生	A	B	C	D	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	387 (43.0)	318 (35.4)	159 (17.7)	30 ( 3.3)	5
応用化学	58 (47.5)	43 (35.2)	16 (13.1)	5 ( 4.1)	0
材料工学	73 (45.3)	55 (34.2)	31 (19.3)	2 ( 1.2)	0
機械工学	61 (43.3)	44 (31.2)	28 (19.9)	5 ( 3.5)	3
生産システム	35 (35.7)	38 (38.8)	22 (22.4)	3 ( 3.1)	0
電気情報	87 (44.6)	67 (34.4)	30 (15.4)	9 ( 4.6)	2
知能情報	25 (43.9)	22 (38.6)	7 (12.3)	3 ( 5.3)	0
社会開発	48 (38.4)	49 (39.2)	25 (20.0)	3 ( 2.4)	0
2年生	A	B	C	D	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	206 (28.5)	323 (44.7)	156 (21.6)	35 ( 4.8)	3
応用化学	27 (29.0)	40 (43.0)	22 (23.7)	3 ( 3.2)	1
材料工学	29 (24.4)	57 (47.9)	25 (21.0)	8 ( 6.7)	0
機械工学	27 (24.3)	61 (55.0)	19 (17.1)	4 ( 3.6)	0
生産システム	26 (26.8)	41 (42.3)	23 (23.7)	7 ( 7.2)	0
電気情報	57 (30.5)	77 (41.2)	44 (23.5)	7 ( 3.7)	2
社会開発	40 (34.5)	47 (40.5)	23 (19.8)	6 ( 5.2)	0

(A)回答と(B)回答を合計した数が、1年生で約8割、2年生で7割以上であることに注目すべきであろう。つまり、一つの外国語だけでよしとする者はきわめて少数であるということである。但し、(C)回答の数が1年生と2年生とではほとんど変わらないのに、2年生になると、(A)回答から(B)回答に多少の数が流れているのは、[設問1]の場合と同様に、積極的に学習するところまでは行っていないということであろうか。

設問 5 3年性以後も継続してドイツ語・フランス語の授業を受講したいと思いますか。

A 思う                      B 思わない                      C 分からない

<u>1年生</u>	A	B	C	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	180 (20.0)	388 (43.2)	331 (36.8)	0
応用化学	22 (18.0)	53 (43.4)	47 (38.5)	0
材料工学	35 (21.7)	59 (36.6)	67 (41.6)	0
機械工学	39 (27.7)	53 (37.6)	49 (34.8)	0
生産システム	13 (13.3)	50 (51.0)	35 (35.7)	0
電気情報	37 (19.0)	77 (39.5)	81 (41.5)	0
知能情報	12 (21.1)	30 (52.6)	15 (26.3)	0
社会開発	22 (17.6)	66 (52.8)	37 (29.6)	0
<u>2年生</u>	A	B	C	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	94 (13.0)	451 (62.4)	174 (24.1)	4
応用化学	20 (21.5)	50 (53.8)	22 (23.7)	1
材料工学	12 (10.1)	75 (63.0)	31 (26.1)	1
機械工学	11 ( 9.9)	65 (58.6)	33 (29.7)	2
生産システム	4 ( 4.1)	68 (70.1)	25 (25.8)	0
電気情報	34 (18.2)	113 (60.4)	40 (21.4)	0
社会開発	13 (11.2)	80 (69.0)	23 (19.8)	0

これは、まだドイツ語（フランス語）学習を始めたばかりの1年生の回答よりも、既に1年間学んだ2年生の回答に注目したい。そもそも本学の学生は3年次以降のいわゆる専門課程に進学すると過密な時間割のもとでかなりのハードな授業を受けることになる。そんな状態を念頭において、この回答を考えるべきであろう。すると、2年生で13%（2クラス分の人数）の者が（A）と回答していることの重さが分かる筈である。現行では、3年次以降のいわゆる中級・上級クラスの開講がまったくなされていない。この点に関しても、これだけ希望するものがある以上、その具体的な対策を真剣に考えなければならないだろうと思う。

設問6 未履修外国語授業の時間数(1年生→週2回, 2年生→週1回)について

A 現状でよい B 多すぎる C 少ない D その他

1年生	A	B	C	D	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	669 (74.3)	83 (9.2)	122 (13.6)	23 (2.6)	3
応用化学	95 (77.9)	6 (4.9)	15 (12.3)	6 (4.9)	0
材料工学	128 (79.5)	10 (6.2)	22 (13.7)	1 (0.6)	0
機械工学	105 (73.9)	13 (9.2)	21 (14.8)	2 (1.4)	1
生産システム	77 (78.6)	11 (11.2)	7 (7.1)	3 (3.1)	0
電気情報	133 (68.2)	20 (10.3)	34 (17.4)	6 (3.1)	2
知能情報	48 (84.2)	4 (7.0)	5 (8.8)	0 (0.0)	0
社会開発	83 (66.4)	19 (15.2)	18 (14.4)	5 (4.0)	0
2年生	A	B	C	D	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	529 (73.2)	112 (15.5)	62 (8.6)	18 (2.5)	2
応用化学	70 (75.3)	12 (12.9)	10 (10.8)	1 (1.1)	0
材料工学	78 (65.5)	26 (21.8)	8 (6.7)	6 (5.0)	1
機械工学	85 (76.6)	12 (10.8)	10 (9.0)	3 (2.7)	1
生産システム	78 (80.4)	13 (13.4)	3 (3.1)	3 (3.1)	0
電気情報	134 (71.7)	32 (17.1)	17 (9.1)	4 (2.1)	0
社会開発	84 (72.4)	17 (14.7)	14 (12.1)	1 (0.9)	0

(A) 回答と(C) 回答を合計した数が, 1年生でも2年生でも9割近くであることに注目すべきである。これは, ほとんどの学生諸君が授業時間数に関して負担を感じていないということであろう。現行の時間数についてはおおむね支持されていると見るべきで, それゆえ, これ以上の時間数の削減, ひいては単位数の削減は, 本来「集中と継続」を必要とする語学(初級)教育を根本的に無意味化する危険がある, と考えるべきではないか。

設問7 クラス定員は何人くらいがよいと思いますか。

- A 30人以下                      B 30~40人                      C 40~50人  
D 50~60人                      E 60~70人                      F 70人以上

1年生	A	B	C	D	E	F	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	291 (32.4)	318 (35.4)	203 (22.6)	55 ( 6.1)	5 ( 0.6)	23 ( 2.6)	3
応用化学	38 (31.4)	41 (33.9)	31 (25.6)	7 ( 5.8)	0 ( 0.0)	3 ( 2.5)	1
材料工学	49 (30.4)	49 (30.4)	47 (29.2)	11 ( 6.8)	2 ( 1.2)	2 ( 1.2)	1
機械工学	53 (37.6)	52 (36.9)	22 (15.6)	7 ( 5.0)	1 ( 0.7)	6 ( 4.3)	0
生産システム	23 (23.5)	37 (37.8)	23 (23.5)	10 (10.2)	1 ( 1.0)	4 ( 4.1)	0
電気情報	65 (33.3)	69 (35.4)	43 (22.1)	14 ( 7.2)	0 ( 0.0)	4 ( 2.1)	0
知能情報	17 (29.8)	20 (35.1)	15 (26.3)	3 ( 5.3)	0 ( 0.0)	2 ( 3.5)	0
社会開発	46 (36.8)	50 (40.0)	22 (17.6)	3 ( 2.4)	1 ( 0.8)	2 ( 1.6)	1
2年生	A	B	C	D	E	F	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	155 (21.4)	258 (35.7)	175 (24.2)	73 (10.1)	21 ( 2.9)	32 ( 4.4)	9
応用化学	19 (20.4)	33 (35.5)	29 (31.2)	3 ( 3.2)	3 ( 3.2)	4 ( 4.3)	2
材料工学	23 (19.3)	41 (34.5)	25 (21.0)	19 (16.0)	4 ( 3.4)	7 ( 5.9)	0
機械工学	36 (32.4)	38 (34.2)	21 (18.9)	13 (11.7)	1 ( 0.9)	1 ( 0.9)	1
生産システム	16 (16.5)	37 (38.1)	24 (24.7)	9 ( 9.3)	3 ( 3.1)	5 ( 5.2)	3
電気情報	34 (18.2)	62 (33.2)	47 (25.1)	24 (12.8)	6 ( 3.2)	12 ( 6.4)	2
社会開発	27 (23.3)	47 (40.5)	29 (25.0)	5 ( 4.3)	4 ( 3.4)	3 ( 2.6)	1

(A) 回答と(B) 回答さらには(C) 回答を合計した数が、1年生で9割、2年生で8割である。ほぼ予想された常識的な回答とも言えるであろう。但し、(A) 回答が予想外に少ないのは、これまで30人以下という授業形態を経験したことがないからではないか。それとも、人数が余りに少ないと授業中に積極的に反応しなければいけないとの危機感(?)があるとでも言うのであろうか。それにしても、本学の現行の授業定員数(60名以上)は余りにも多すぎるように思われる。この回答にあるように、再履修生を含めてもせいぜい50人程度にしたいものである。そもそも語学教育の場こそ、多人数教育を施行してきた大学の教育体制において、唯一の小人数教育の場ではなかったか。したがって、語学小人数教育体制が崩壊したならば、今日の大学教育が持っている数少ない利点のほとんどが消滅してしまうことになるだろう。

設問8 未履修外国語の授業ではどの技能に重点を置くべきだと思いますか。(解答一つ)

A Reading      B Writing      C Hearing      D Speaking

1年生	A	B	C	D	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数
全体	321 (35.7)	50 ( 5.6)	150 (16.7)	378 (42.0)	1
応用化学	62 (50.8)	7 ( 5.7)	24 (19.7)	29 (23.8)	0
材料工学	56 (34.8)	7 ( 4.3)	23 (14.3)	75 (46.6)	0
機械工学	46 (32.6)	8 ( 5.7)	28 (19.9)	59 (41.8)	0
生産システム	28 (28.6)	7 ( 7.1)	17 (17.3)	45 (45.9)	1
電気情報	66 (33.8)	9 ( 4.6)	33 (16.9)	87 (44.6)	0
知能情報	25 (43.9)	3 ( 5.3)	12 (21.1)	17 (29.8)	0
社会開発	38 (30.2)	9 ( 7.1)	13 (10.3)	66 (52.4)	0
2年生	A	B	C	D	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数
全体	278 (38.5)	34 ( 4.7)	145 (20.1)	258 (35.7)	8
応用化学	37 (39.8)	3 ( 3.2)	14 (15.1)	39 (41.9)	0
材料工学	49 (41.2)	7 ( 5.9)	24 (20.2)	38 (31.9)	1
機械工学	48 (43.2)	2 ( 1.8)	20 (18.0)	40 (36.0)	1
生産システム	33 (34.0)	5 ( 5.2)	29 (29.9)	29 (29.9)	1
電気情報	78 (41.7)	11 ( 5.9)	36 (19.3)	60 (32.1)	2
社会開発	33 (28.4)	6 ( 5.2)	22 (19.0)	52 (44.8)	3

外国語学習の目的として、[設問2]の回答にもあるように、一方に「専門の勉強のために、文献を読めるようになりたい」、他方に「旅行等で役立たせるために日常会話程度はできるようになりたい」という二つの極があるように思われる。つまり、(A)回答と(D)回答である。これは、おそらく、ドイツ語(フランス語)学習の場合に限らず、英語を学習する際にも当て嵌まるであろう。但し、(A)回答の中には、これまでの受験勉強の影響から、あるいは単なる無関心から、ただ惰性的に答えているものもあるかもしれないので注意する必要がある。

設問9 未履修外国語を主としてどのような目的に役立てたいと考えていますか。(解答一つ)

- A 本(新聞・雑誌を含む)を読めるようになるため    B 専門授業・大学院入試のため  
 C 趣味(音楽・映画等)を深めるため                    D 海外旅行等のため  
 E その他(                    )

1年生	A	B	C	D	E	無効
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数
全体	235 (26.1)	259 (28.7)	97 (10.8)	221 (24.5)	85 ( 9.4)	5
応用化学	41 (33.6)	37 (30.3)	16 (13.1)	19 (15.6)	7 ( 5.7)	2
材料工学	46 (28.6)	40 (24.8)	17 (10.6)	37 (23.0)	19 (11.8)	2
機械工学	38 (27.0)	38 (27.0)	12 ( 8.5)	37 (26.2)	15 (10.6)	1
生産システム	21 (21.4)	24 (24.5)	12 (12.2)	31 (31.6)	10 (10.2)	0
電気情報	43 (22.1)	64 (32.8)	27 (13.8)	44 (22.6)	17 ( 8.7)	0
知能情報	16 (28.1)	19 (33.3)	6 (10.5)	12 (21.1)	4 ( 7.0)	0
社会開発	30 (23.4)	37 (28.9)	7 ( 5.5)	41 (32.0)	13 (10.2)	0

2年生	A	B	C	D	E	無効
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数
全体	173 (23.9)	178 (24.6)	102 (14.1)	165 (22.8)	82 (11.3)	23
応用化学	23 (24.7)	25 (26.9)	16 (17.2)	17 (18.3)	9 ( 9.7)	3
材料工学	25 (21.0)	37 (31.1)	18 (15.1)	23 (19.3)	13 (10.9)	3
機械工学	25 (22.5)	34 (30.6)	11 ( 9.9)	24 (21.6)	16 (14.4)	1
生産システム	14 (14.4)	24 (24.7)	14 (14.4)	23 (23.7)	16 (16.5)	6
電気情報	56 (29.9)	40 (21.4)	27 (14.4)	35 (18.7)	21 (11.2)	8
社会開発	30 (25.9)	18 (15.5)	16 (13.8)	43 (37.1)	7 ( 6.0)	2

[設問8]の場合と同様に、ここでも回答に(B)と(D)が多いのは、先に分析したように、外国語学習の目的として、大きな二つの極があるからであろう。しかし、逆に考えると、我々の今回の設問作成そのものがいささか安易だったかもしれない。学生の意向を十全に把握するためにはもう少し異なる角度からの設問設定をしなければいけなかったかもしれない。しかし、教える側からすれば、いずれにせよ、このような目的を学生が回答している以上、そうした目的をなるべく明確にして絶えず強調することで、学生側の学習意欲を今以上に高めることができることになると言えるかもしれない。少なくとも、そうした判断材料のひとつにはなるであろう。

設問10 名工大のドイツ語・フランス語ⅠA, ⅠB, Ⅱのような(授業内容によって教師を選べる)システムをどう思いますか。

A よい                      B よくない                      C その他(                      )

1年生	A	B	C	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	790 (87.9)	60 ( 6.7)	45 ( 5.0)	4
応用化学	112 (91.8)	4 ( 3.3)	6 ( 4.9)	0
材料工学	143 (88.8)	10 ( 6.2)	7 ( 4.3)	1
機械工学	128 (90.8)	6 ( 4.3)	6 ( 4.3)	1
生産システム	84 (85.7)	8 ( 8.2)	6 ( 6.1)	0
電気情報	164 (84.1)	15 ( 7.7)	14 ( 7.2)	2
知能情報	56 (98.2)	1 ( 1.8)	0 ( 0.0)	0
社会開発	103 (82.4)	16 (12.8)	6 ( 4.8)	0
2年生	A	B	C	無効 人数
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	642 (88.8)	58 ( 8.0)	21 ( 2.9)	2
応用化学	86 (92.5)	2 ( 2.2)	4 ( 4.3)	1
材料工学	100 (84.0)	14 (11.8)	5 ( 4.2)	0
機械工学	98 (88.3)	9 ( 8.1)	3 ( 2.7)	1
生産システム	84 (86.6)	12 (12.4)	1 ( 1.0)	0
電気情報	169 (90.4)	13 ( 7.0)	5 ( 2.7)	0
社会開発	105 (90.5)	8 ( 6.9)	3 ( 2.6)	0

現行のシステムはかなり支持されていると言える。ただ、後に詳しく見る[設問12]の(F)回答とも関係づけて考えれば、抽選もれた一部の学生諸君(約1割弱)から強い批判があることも忘れてはならないであろう。

## 設問11 名工大のドイツ語・フランス語授業の感想。

- A 興味もてる                      B 少しは興味もてる  
C 興味もてない                    D その他 (       )

1年生	A	B	C	D	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数
全体	208 (23.1)	501 (55.7)	152 (16.9)	34 ( 3.8)	4
応用化学	29 (23.8)	64 (52.5)	24 (19.7)	4 ( 3.3)	1
材料工学	40 (24.8)	82 (50.9)	33 (20.5)	6 ( 3.7)	0
機械工学	45 (31.9)	80 (56.7)	12 ( 8.5)	4 ( 2.8)	0
生産システム	17 (17.3)	56 (57.1)	18 (18.4)	6 ( 6.1)	1
電気情報	43 (22.1)	115 (59.0)	29 (14.9)	7 ( 3.6)	1
知能情報	13 (22.8)	36 (63.2)	7 (12.3)	0 ( 0.0)	1
社会開発	21 (16.8)	68 (54.4)	29 (23.2)	7 ( 5.6)	0
2年生	A	B	C	D	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数
全体	59 ( 8.2)	358 (49.5)	285 (39.4)	18 ( 2.5)	3
応用化学	13 (14.0)	53 (57.0)	25 (26.9)	2 ( 2.2)	0
材料工学	12 (10.1)	54 (45.4)	46 (38.7)	7 ( 5.9)	0
機械工学	10 ( 9.0)	51 (45.9)	46 (41.4)	4 ( 3.6)	0
生産システム	2 ( 2.1)	45 (46.4)	47 (48.5)	3 ( 3.1)	0
電気情報	14 ( 7.5)	91 (48.7)	78 (41.7)	2 ( 1.1)	2
社会開発	8 ( 6.9)	64 (55.2)	43 (37.1)	0 ( 0.0)	1

(A) 回答と (B) 回答を合わせると1年生で約8割弱, 2年生でも約6割弱となる。但し, 2年生で (C) 回答がかなり増えるのは, 我々教師側の教え方に問題があるかもしれない。しかし, その一方で, (C) 回答率の上昇は, 自分の直接的な専門科目以外であると判断した「授業」を受ける際の学生の一般的傾向でもあるのではないかという気がしてならない。

ところで, 生産システム学科の2年生に (C) 回答が極端に多いのはどうしてなのであろうか。[設問1]の場合と同様に, ここでも応用化学学科と生産システム学科との (C) 回答の間には約20%もの違いが生じている。1年生の時にはそれがほとんど同じ数字であるにも拘わらず。このことは今後の検討課題としたい。

設問12 もし不満があるとすればどこですか。(解答一つ)

A 教師                      B教材                      C教え方                      D 教育設備  
E 人数の多さ              F 制度                      G 特になし                      H その他

1年生	A	B	C	D	E	F	G	H	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	30 ( 3.3)	46 ( 5.1)	120 (13.3)	169 (18.8)	123 (13.7)	61 ( 6.8)	301 (33.5)	41 ( 4.6)	8
応用化学	0 ( 0.0)	4 ( 3.3)	22 (18.0)	22 (18.0)	17 (13.9)	5 ( 4.1)	40 (32.8)	9 ( 7.4)	3
材料工学	5 ( 3.1)	13 ( 8.1)	20 (12.4)	28 (17.4)	22 (13.7)	13 ( 8.1)	51 (31.7)	7 ( 4.3)	2
機械工学	2 ( 1.4)	8 ( 5.7)	17 (12.1)	26 (18.4)	29 (20.6)	6 ( 4.3)	46 (32.6)	7 ( 5.0)	0
生産システム	1 ( 1.0)	0 ( 0.0)	13 (13.3)	17 (17.3)	9 ( 9.2)	10 (10.2)	41 (41.8)	6 ( 6.1)	1
電気情報	16 ( 8.2)	7 ( 3.6)	24 (12.3)	34 (17.4)	24 (12.3)	15 ( 7.7)	69 (35.4)	4 ( 2.1)	2
知能情報	0 ( 0.0)	5 ( 8.8)	8 (14.0)	15 (26.3)	11 (19.3)	6 (10.5)	11 (19.3)	1 ( 1.8)	0
社会開発	6 ( 4.8)	9 ( 7.2)	16 (12.8)	27 (21.6)	11 ( 8.8)	6 ( 4.8)	43 (34.4)	7 ( 5.6)	0
2年生	A	B	C	D	E	F	G	H	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	46 ( 6.4)	74 (10.2)	152 (21.0)	95 (13.1)	63 ( 8.7)	85 (11.8)	157 (21.7)	40 ( 5.5)	11
応用化学	6 ( 6.5)	6 ( 6.5)	16 (17.2)	24 (25.8)	3 ( 3.2)	10 (10.8)	24 (25.8)	2 ( 2.2)	2
材料工学	11 ( 9.2)	15 (12.6)	24 (20.2)	16 (13.4)	5 ( 4.2)	14 (11.8)	26 (21.8)	5 ( 4.2)	3
機械工学	7 ( 6.3)	14 (12.6)	15 (13.5)	17 (15.3)	11 ( 9.9)	18 (16.2)	19 (17.1)	9 ( 8.1)	1
生産システム	7 ( 7.2)	10 (10.3)	15 (15.5)	11 (11.3)	6 ( 6.2)	15 (15.5)	24 (24.7)	6 ( 6.2)	3
電気情報	7 ( 3.7)	17 ( 9.1)	48 (25.7)	17 ( 9.1)	26 (13.9)	19 (10.2)	38 (20.3)	14 ( 7.5)	1
社会開発	8 ( 6.9)	12 (10.3)	34 (29.3)	10 ( 8.6)	12 (10.3)	9 ( 7.8)	26 (22.4)	4 ( 3.4)	1

問題とすべきは、「特になし」とした(G)回答の多さを除けば、(C)回答と(D)回答さらには(E)回答の高い割合である。ことに、(C)回答は、(D)回答や(E)回答とは逆に、2年生になるとかなり増大している。しかし、[設問13]の結果をも含めて考えると、これは、おそらく、教師個人の教え方そのものというよりは、教育設備や人数をも含めた「教え方」の不備への不満が窺えるということではなからうか。つまり、(C)回答と(D)回答さらには(E)回答がこのように多いのは、そこになんか強い関連があると見るべきであろう。実際、我々が20年以上前に大学で受けた「テープレコーダー片手に50人以上の多数の学生を相手するという授業スタイル」と、現在のスタイルはほとんど変わっていないというのが現状である。これでは、学生諸君は語学習得に関して絶望するしかないのではないだろうか。

また、[設問10]でも触れたことだが、2年生になると、(F)回答が相対的にかなり多くなる。これはどう考えるべきであろうか。単に(授業内容によって教師を選べる)システムへの不満だけなのであろうか。検討の余地があるかもしれない。

設問13 名工大のドイツ語・フランス語の授業に関して、良いと思われる点があるとすればどこですか。(解答一つ)

- A 教師            B 教材            C 教え方            D 教育設備  
E 人数の多さ    F 制度            G 特になし            H その他

1年生	A	B	C	D	E	F	G	H	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	157 (17.5)	53 (5.9)	66 (7.3)	6 (0.7)	22 (2.4)	51 (5.7)	519 (57.7)	14 (1.6)	11
応用化学	17 (13.9)	9 (7.4)	8 (6.6)	0 (0.0)	4 (3.3)	10 (8.2)	69 (56.6)	1 (0.8)	4
材料工学	27 (16.8)	9 (5.6)	13 (8.1)	1 (0.6)	2 (1.2)	6 (3.7)	98 (60.9)	2 (1.2)	3
機械工学	29 (20.6)	6 (4.3)	13 (9.2)	0 (0.0)	3 (2.1)	9 (6.4)	76 (53.9)	5 (3.5)	0
生産システム	14 (14.3)	2 (2.0)	10 (10.2)	0 (0.0)	3 (3.1)	6 (6.1)	61 (62.2)	1 (1.0)	1
電気情報	35 (17.9)	13 (6.7)	14 (7.2)	0 (0.0)	2 (1.0)	8 (4.1)	119 (61.0)	2 (1.0)	2
知能情報	13 (22.8)	6 (10.5)	2 (3.5)	0 (0.0)	2 (3.5)	3 (5.3)	29 (50.9)	1 (1.8)	1
社会開発	22 (17.6)	8 (6.4)	6 (4.8)	5 (4.0)	6 (4.8)	9 (7.2)	67 (53.6)	2 (1.6)	0
2年生	A	B	C	D	E	F	G	H	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
全体	138 (19.1)	28 (3.9)	24 (3.3)	3 (0.4)	24 (3.3)	45 (6.2)	436 (60.3)	14 (1.9)	11
応用化学	17 (18.3)	5 (5.4)	4 (4.3)	1 (1.1)	3 (3.2)	4 (4.3)	58 (62.4)	1 (1.1)	0
材料工学	24 (20.2)	3 (2.5)	5 (4.2)	0 (0.0)	2 (1.7)	7 (5.9)	76 (63.9)	1 (0.8)	1
機械工学	22 (19.8)	2 (1.8)	2 (1.8)	0 (0.0)	4 (3.6)	9 (8.1)	67 (60.4)	1 (0.9)	4
生産システム	15 (15.5)	2 (2.1)	3 (3.1)	0 (0.0)	4 (4.1)	8 (8.2)	58 (59.8)	3 (3.1)	4
電気情報	34 (18.2)	8 (4.3)	5 (2.7)	2 (1.1)	6 (3.2)	11 (5.9)	116 (62.0)	3 (1.6)	2
社会開発	26 (22.4)	8 (6.9)	5 (4.3)	0 (0.0)	5 (4.3)	6 (5.2)	61 (52.6)	5 (4.3)	0

(A) 回答が比較的多い。これは、教師に対する信頼度が高いと一応見ることができよう。[設問12]の分析で触れたように、広い意味での「教え方」に対する不満がかなりあるにも拘わらず、教師の個人的な(人間的な?)魅力も含めて、教師側の努力や授業に対する姿勢が認められ、支持されていると見ることができよう。とは言え、「特になし」と回答した(G)回答数の多さの方も真剣に受け止めるべきであろう。

設問14 授業以外では主にどのようなものを利用していますか。(解答一つ)

- A 外国語学校                      B ラジオ・テレビ講座                      C 参考書  
 D 市販の語学テープ・ビデオ教材等                      E 語学雑誌  
 F 特になし                      G その他 (                      )

1年生	A	B	C	D	E	F	G	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数
全体	1 ( 0.1)	41 ( 4.6)	41 ( 4.6)	19 ( 2.1)	4 ( 0.4)	780 (86.8)	9 ( 1.0)	4
応用化学	0 ( 0.0)	9 ( 7.4)	11 ( 9.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	100 (82.0)	2 ( 1.6)	0
材料工学	0 ( 0.0)	6 ( 3.7)	6 ( 3.7)	4 ( 2.5)	1 ( 0.6)	141 (87.6)	1 ( 0.6)	2
機械工学	0 ( 0.0)	5 ( 3.5)	6 ( 4.3)	5 ( 3.5)	0 ( 0.0)	123 (87.2)	2 ( 1.4)	0
生産システム	0 ( 0.0)	2 ( 2.0)	1 ( 1.0)	1 ( 1.0)	1 ( 1.0)	92 (93.9)	0 ( 0.0)	1
電気情報	1 ( 0.5)	9 ( 4.6)	9 ( 4.6)	3 ( 1.5)	1 ( 0.5)	169 (86.7)	2 ( 1.0)	1
知能情報	0 ( 0.0)	5 ( 8.8)	3 ( 5.3)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	48 (84.2)	1 ( 1.8)	0
社会開発	0 ( 0.0)	5 ( 4.0)	5 ( 4.0)	6 ( 4.8)	1 ( 0.8)	107 (85.6)	1 ( 0.8)	0
2年生	A	B	C	D	E	F	G	無効
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数
全体	6 ( 0.8)	30 ( 4.1)	67 ( 9.3)	9 ( 1.2)	5 ( 0.7)	594 (82.2)	7 ( 1.0)	5
応用化学	0 ( 0.0)	4 ( 4.3)	14 (15.1)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	71 (76.3)	3 ( 3.2)	1
材料工学	1 ( 0.8)	4 ( 3.4)	12 (10.1)	1 ( 0.8)	0 ( 0.0)	98 (82.4)	3 ( 2.5)	0
機械工学	2 ( 1.8)	4 ( 3.6)	8 ( 7.2)	1 ( 0.9)	1 ( 0.9)	95 (85.6)	0 ( 0.0)	0
生産システム	2 ( 2.1)	2 ( 2.1)	8 ( 8.2)	3 ( 3.1)	2 ( 2.1)	80 (82.5)	0 ( 0.0)	0
電気情報	0 ( 0.0)	7 ( 3.7)	17 ( 9.1)	2 ( 1.1)	2 ( 1.1)	156 (83.4)	0 ( 0.0)	3
社会開発	1 ( 0.9)	9 ( 7.8)	8 ( 6.9)	2 ( 1.7)	0 ( 0.0)	94 (81.0)	1 ( 0.9)	1

(F) 回答の多さに今更ながら愕然としてしまう。大学以外の場所で積極的に学ぼうとしない以上、大学でそれなりの場所を提供する必要(使命?)があるとも考えられるであろう。こうした現状をただ学生側の一方的な責任とするのではなく、どうしてこのような状態になってしまったのか、その原因や理由を探って、教える側も真剣にそれに対処しなければならないだろう。というのも、[設問1]にあるように、少なくとも5割から6割の学生が英語以外の外国語を(例え消極的にせよ)学習したいと願っているのだから。

設問15 名工大のドイツ語・フランス語の授業について、上記の質問内容、あるいはその他に意見・感想があったら書いて下さい。

我々は集計に際して、以下の10項目に「その他の意見・感想」等を分類してみた。(複数回答を可とした)

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1. 教師によって(授業, 教材, 成績)の難易度が異なる    |
| 2. 進度が速すぎる                       |
| 3. 選択にしたほうが良い                    |
| 4. 希望した言語(今のところドイツ語)を必ず引き受けてほしい  |
| 5. 2年間程度では身につかない                 |
| 6. ドイツ語・フランス語以外の言語を(も)受講したい      |
| 7. 人数が多すぎる                       |
| 8. ネイティブスピーカーをもっと増やしてほしい         |
| 9. 文法と読本に重複,あるいは乖離がある(体系的な授業を望む) |
| 10. 100分を2回より,50分を4回の方が効率的である    |

分類	1. 人数	2. 人数	3. 人数	4. 人数	5. 人数	6. 人数	7. 人数	8. 人数	9. 人数	10. 人数
1年生	17	40	9	8	33	8	14	21	13	10
2年生	13	18	13	10	18	6	8	13	2	1

なお、上記の10分類以外の意見・感想の中でとくに目立った記述としては以下の通りである。

1年生: 基礎を繰り返して教えてほしい。

LL装置やビデオ等の使用を考えてほしい。

日常会話の訓練に中心をおいて教えてほしい。

2年生: 教材が難しすぎる。

LL装置やビデオなどの有効な使用をもっと考えてほしい。

日常会話に重点をおいて教えてほしい。

かなりの無回答がある中、(2)を回答した者と(5)を回答したものが比較的多いのは、本学においても、大学における未履修外国語教育が一般的にかかえているジレンマ、すなわち授業時間が絶対的に少ないにも拘わらずある程度の基礎は習得させなければいけないというジレンマがそのまま当て嵌まるということであろうか。つまり、教師側はある程度のスピードを要求するが、学生側と言えば英語を学び始めた頃のゆっくりとした進度を望むために、到底「ついてゆけない」ということになり、その結果、回答(5)にあるように、自分の中学2年間を思い出して、所詮、2年間では何も身につかない筈と短絡的に結論づけてしまうのかもしれない。

また、1年生から2年生へと移行する間に、回答率がかなり減少してしまっている。これはどうしてであろうか。2年生になると、語学教育に対して建設的な注文等を記述する余裕もなくなってしまったということであろうか。